

電腦援助

ver.1.0

浅田 英輔

対人援助職に必要なのは、対人援助技術・知識である。それはたぶん、確かだと思う。

でも、それ以外にも必要な知識や技術はたくさんある。その部分を少し伝えていきたい。パソコン周辺のことに関心の強い人にはカンタンすぎる知識かもしれないけれど。



私は、対人援助職をしているのに「パソコンはちょっと難しくて」などという人に疑問を持っている。相談に来る人の多くはインターネットから知識を得る術を知っている。子どもたちに起きる問題は、長じるほどケータイやネットが絡んでくる。すべてわかっていなくとも、「そういうもんだよな」という理解は必要だ。

また、研修会や学会の情報やらなんやらも、ネットを通して得られるものも多い。「みんなが知っているものは知っているべき」もどうかと思うが、誰でも知り得る情報を手に入れる方法は知りたい。

そういう人の助けになれたらいいなあと思っている。だから難しいことは書かないので、ちょっとだけ踏み出してみたい。

さて、第1回はWebメールのお話。



対人援助学マガジンを読んでいる多くの方は、インターネットにつながる環境があると思う。家でも職場でもどこでもいいけど、インターネットにつながったパソコンをみることができて、簡単な検索ができて、PDFファイルのダウンロードができる人だろう。家にも職場にも、ある程度自由に使えるインターネットにつながっているパソコンがある人もいるだろう。最近だとスマートフォンでみているという人もいるかもしれない。自分では持っていないけど、家族が使っているものをちょっと借りているという人もいるかもしれない。

そういういろいろな人たち誰でも有用なのが「Web メール」だ。Web メールというのは、インターネット上にある「保管庫」にメールの情報やらを保存しておくタイプのメール。

「普通のパソコンメール」というのは「プロバイダ」に契約して、プロバイダの保管庫を借りたり、自分のパソコンに保存したりするものを指す。これはメールアドレスの「@」の後ろになにながついているかで簡単に見分けることができる。

so-net は「@ナントカ.so-net.ne.jp」

biglobe だと「@ナントカ.biglobe.ne.jp」

nifty だと「@nifty.com」といった具合である。



これはインターネット回線を契約するときにセットでついてくるもの。10年ほど前はこれを使うのが一般的であった。これはこれでいいと思うし、ちゃんと契約して使っていますよ、という身分証明的な意味合いもある。

これに対して Web メールと呼ばれるものは、多くの場合は無料で、簡単な登録をするだけで使えるメールである。

@の後ろは「@gmail.com」「@yahoo.ne.jp」

「@hotmail.co.jp」などである。見たとおり、Google や Yahoo、hotmail (Microsoft) などがサービスを提供している。これらは誰でも取得できるので、自由に使える反面「信用できない」と捉えられる場合もあったりする。



①どこでもみられる



一番の利点は「どこでもみることができる」こと。職場でも家でもスマホでも、ID と Password さえ入力すれば同じメールをみることができるのだ。「家で仕事のメールなんて見たくない」という人もいるかもしれないが、こういう雑誌を読んでいる人は「仕事のうちなんだけど、本来業務ではない」ようなことも多いのではないかな。そういうメールは家でみることもあるだろう。「児相研メール」と

か「臨床心理士会メール」とか「家族支援研究会メール」とかそういうやつである。土曜の研修会の場所どこだっけ！と悩んでも、職場に行くのはめんどくさいのである。仕事のメールアドレスを業務外のものに登録していいのか、という話題も以前起きていた。

②メールアドレスはかわらない

もうひとつの利点は、ずっとかわらないということである。Gmailであれば、Googleが潰れないかぎりはいじょうぶだろう。たぶん、まだまだつぶれない（たぶんね）。仕事をやめても、職場のアドレスがかわっても、ずっと使える。研修会の取りまとめなどをやっていると、結構やっかいなのが「メールアドレスかわりました」の連絡。いいからGmail使ってよ！とか思ったりする。



③用途によって使い分け



あとは、無料なのでアドレスをたくさん持つこともできる。通販サイトなど、登録するのはいいけどセールスメールがたくさん来てしまうものもある。「tuuhanasada@～」でアドレスを持ってもいいわけだ。単発研修会取りまとめ用のアドレスもいい。IDとPasswordを共有すれば、「実行委員全員が見られるアドレス」というのもアリだ。ちなみに、私はWebメールアドレスは6つぐらい持っていたりする。用途によって使い分けることもできるのだ。一般向けの研修会で、イマドキメール申し込みができないのはどうかと思う。

また、スマートフォンがかなり普及しており、「Android」であればGoogleのアカウントは持っていると思う。そのメール、パソコンから見ることもできるんですよ。

そんな便利なWebメール、ひとつぐらいは登録してみてもはどうだろうか。

私の師の一人がよく「とりあえずやってみればいい」というようなことを言いますよね。「少しあわてんぼうでいいのだ」と。無料で、便利そうだし、であればやってみようよ。使えなかったらやめればいいじゃん。使えそうなら続けてみればいい。「よく理解してから」というけど、「よく理解できたとき」はたぶん来ない。まあ、こないよね。このあたりは実に対人援助の方法と同じである（強引）。おためしあれ！

疑問・感想は dennouenzyo@gmail.com まで！（←いま作った）